

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503858		
法人名	株式会社 フロイデプランニング		
事業所名	グループホーム けあふる白樺		
所在地	札幌市南区藤野4条2丁目3-18		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成25年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様に安心、安全、快適な空間を提供し居心地の良い暮らしが出来る様に考え、施設内、居室、共有フロア全てに床暖房が入り冬でも快適な温度に保たれています。行事にも力を入れており、夏には夏祭り冬はクリスマスを全ユニット合同で行い、ご家族はもちろん、町内の方に来所して頂き施設と地域の方々の交流も深め楽しんで頂いている。また月に1度以上は各ユニットで行事(ドライブ、バーベキュー、誕生日会)なども行っている。町内の行事に出来るだけ参加をしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24年 12月 5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員数は少ないものの、管理者及び職員の懸命な対応により利用者の豊かな暮らしが守られています。調理専属の職員を設置しており、他の職員は利用者の寄り添いの時間を多くする配慮も見られます。運営法人代表者の考える福祉への拘りも、十分職員が理解する機会を持ちつつ、代表者を始め職員の全てがしっかりと方向に向かっていく様子を見ることができました。職員のスキル向上には、ロールプレイング方式による実際に現場を再現しながらの勉強会は効果的であり、即実践に役立つものと高い評価をするものです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳、自立、自由をもとに入居者様一人一人の、そのひとらしい生活が出来るようにケアプランを考え地域とのつながりのあるケアプランにするように心がけている。	理念は「尊厳・自立・自由」の大きな3本の柱で成り立っていますが、中でも職員による利用者の自立に向けたケアの内容が一貫しており、現場での実践は特筆に値するものと思慮します。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内の行事、輪投げ大会に参加させて頂いている。またホームの行事、夏祭り、クリスマス会などの案内を町内会の方に出し参加して頂いている。	職員は地域密着型サービスの意義を十分理解しており、地域の行事に進んで参加し、かつ、ホームでの行事には地域の方々が挙って参加してくれるなど、互いの関係は温かく厚いものとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症に関わる事で分からない事があれば、いつでも相談や質問をして下さいと伝えている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1回の開催をし、ご家族、町内の方、包括センターの方を交え意見を聞いたり、ホームでの報告をしたりしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催され、報告事項や今後の行事などの説明の後、メンバーとの適切な質疑が交わされています。昨年からの課題でもある地域住民の参加については進展が見えるものの、多くの家族参加に向けた具体的な取り組みには至っていません。	この会議が、地域の各層のメンバーによる、ホームの取り組み内容や改善課題を話し合う大切な場であることに鑑み、議事録の送付を含め、あらゆる機会を通して多くの家族への参加を求める取り組みが強く期待されます。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは何かあったら直ぐに連絡し、電話などで話合っている。	市の担当者とは運営法人を通して諸問題などの相談、指導を受けていますが、今後は外部評価で明らかになった諸課題等の解決のため、目標達成計画書に基づいた状況の報告などを踏まえ綿密な連携を行うこととしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	申し送り時、ケアカンファレンス時に、話し合いをして何が身体拘束にあたるかをスタッフが理解するように話し合いを持っている。	身体拘束をしないケア及び虐待防止に関する職員間の勉強会を行っています。特にロールプレイングを採用して、ケアの現場を再現した中で、職員のあるべき対応及びスキルの向上を図っており、大きな効果を挙げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の研修や職員の資格取得時に学んだ事をカンファレンスや申し送り時に話し合い虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスにて利用者の権利に対しての話し合いを行い、自立支援を促す為の支援に協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ利用者、家族にしっかりと説明し、理解納得されている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時など、要望を伺い申し送り時やカンファレンス等で話し合い出来る範囲での実現に向け検討し反映している。	家族の意見、要望などは家族の訪問時に聞く機会を設けて、出来ることは直ぐに着手するなど運営に反映するようにしています。特に利用者の状況に対する要望も多く聞くことが出来、改善に向けたサービスに反映させています。今後は「意見箱」の活用も検討することとしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に4回の代表者を含めた総合カンファレンスを行い職員が直接代表者に意見を伝える機会を設けている。また日々で気づいた点などは、管理者から代表者へ情報を話し反映させていくようにしている。	代表者の意思がスムーズに伝わり、かつ、職員の意見などが素早く反映されるように、年に4回のカンファレンスを実施しており、活発な意見交換が行われています。また、日常の現場でも職員間の風通しの良い関係が構築されており、屈託のない会話が職場の改善に効果を挙げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の情報は管理者が把握し代表者に報告している。また代表者と管理者で話し合い職場環境や条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格を取る際や研修に参加する時はシフトの調整を行い、働きながら資格取得や研修に参加出来るように配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議などで交流する機会があり、その場では情報の交換し、サービスの質の向上に務めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のホーム見学を通して雰囲気をつかんで頂いたり生活に関する質問や不安に思う事を聞き安心した生活をして頂けるように説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学でホーム内の雰囲気を感じて頂き、家族の不安や疑問を取り除ける様サービス内容を説明している。またグループホームとして出来る事、出来ない事も説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の希望するサービスが提供出来る様に良く話し合い、他のサービスも含めた柔軟な対応をするように務めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は全利用者様一人一人としっかりと関わりを持ち理念である「尊厳・自立・自由」を守り、全て介助ではなくご自分で出来る事はして頂き、出来ない事を支援している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで行う行事にはご家族にも参加して頂き楽しんで日々の中でも気が付いた事など、職員からご家族へ提案したり、ご家族の協力もあり利用者様を支えて行く関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族には近況状況の報告として通信（ホームの案内）を送っている。また行事等の案内を送り気軽にホームに来て頂けるように努めている。	利用者の親しい知人が訪問した際には職員もみんなで歓迎しています。また、ドライブの際には前に住まれた地域をめぐるながら話題にするなど馴染みの人や場との関係維持の支援が行われています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の全体体操やレクリエーションの中で職員は利用者同士の関係を深める様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホーム利用が終わった方の家族から相談があった場合は出来る限りの対応を心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望に近付ける様に努め、日々の生活からアセスメントを行いケアカンファレンス等で話し合い検討を行っている。	日常の暮らしの中から、些細な仕草や、言葉かけに対する表情をキャッチしながら利用者の思いや意向の把握に努めています。また、家族からの情報も大切にしており、職員間で共有を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報等で利用者の生活歴や暮らし方をしり、ご家族にお話しを聞き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を見て職員同士情報の共有をし、把握出来る様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の担当者が中心となり、利用者に必要な事、または課題を見つけそれに対してご家族やドクター等のアドバイスを参考にし、現状に即した介護計画を作成している。	担当職員による日常のモニタリングが経過記録の中に詳細に描かれています。計画作成者による介護計画も家族に説明が行われるなど、利用者一人一人がより良く暮らせるためのプランが出来上がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活内容は個々に記録し、朝夕の2回の申し送りに加え、連絡ノート等を使い介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、ご家族の要望に応じて通院介助や散歩など可能な限り応えられる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で行う行事等に出来るだけ参加し地域の方とのふれあいを持って頂ける様にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間対応の医療機関との連携、週に一度の往診医師や訪問看護などを実践している。	かかりつけ医による受診は当初行われていたましたが、最近では家族の要望もあり、ホームの協力医による週に1度の訪問受診も含めた24時間対応の手厚い支援が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段の生活で気づいた事や思った事は週に一度来訪する訪問看護師や医師に相談をし適切な介護を行い支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎月の通院介助時に利用者の情報交換や相談し、病院関係者との関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合について入居時に本人、ご家族に説明し同意を得ている。	医療連携体制が採られており、重度化に向けた対応指針は家族に説明され同意を得ています。現在のところ、看取りまでの移行はなく、今後に向けた対応作りと検討が行われています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作り目につきやすい場所に置き、常時確認出来る様にしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回以上行い職員同士でも話し合い、誘導場所や仕方などの話し合いの時間を設けている。また町内の方より災害時は会館を避難場所にしても良いと許可を頂いている。	年に2回、消防署の協力を得て避難訓練が実施されています。これら訓練の反省を含めた検討会も実施しています。災害に対する備蓄も充実しつつありますが、昨年からの課題でもある緊急時の住民参加は解決されていません。	災害時、とくに夜間の場合は地域住民の支援が不可欠であり、あらゆる機会を通じて協力要請が必要と思慮します。そのため緊急時の避難マニュアルの中に住民の支援範囲などを明記の上、町内会などに協力を要請する取り組みが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応は基本的に敬語を使うが、利用者の希望で敬語を崩して使用している場合もあるが、誇りやプライバシーを損ねない様に注意している。	職員の利用者に対する言葉掛けは、度重なる食事介助の拒否に際しても利用者の人格の尊重を大切に思いながら、粘り強い支援を見ることができました。トイレ誘導や、入浴支援にも気配りをしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の正確や趣向に合わせた働きかけをし、自己決定力を引き出せる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その目をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者に目を配り何をしたいかを感じ、強制はせずご自分のペースで出来る様な支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の更衣介助時に何を着たいか言葉掛けをし服を選んで頂いたり、2～3カ月に1度の訪問理美容サービスを利用し本人の希望を聞き身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は主に職員が行っているがもやしのひげ取りなど、簡単な所を利用者にお問い合わせをしてお手伝いをして頂いたり、食器洗いや食器拭きなど出来る範囲で利用者と一緒に片付けをしている。	食事の献立は、利用者の好みや希望を加味しながら職員が献立作りを行い、料理は調理専属の職員の手によって作られています。利用者はホームの理念に沿ってできる作業(配膳、テーブル拭き、下膳と食器洗いなど)を自発的に行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取拒否がある利用者には職員を変えたり、時間を置いたり、声かけの方法を変えるなどの支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行っている。義歯については夕食後にポリドントを使用している。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を決め介助を行っている。自力にて排泄困難な利用者はお腹のマッサージを行い排泄を促している。	利用者の排泄パターンを把握して、適時さりげない誘導によりトイレでの自立排泄に向けた支援が行われています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者は医師、家族に相談し便秘予防に取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の希望があれば柔軟に対応し入浴して頂いている。	少なくとも週2回を目標に入浴の支援が行われています。入浴拒否もしくは体調が思わしくない場合でも日にちを変えた入浴を楽しんでもらうよう配慮されています。全介助が必要な場合も職員のシフト変更により対応しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠出来る様に日中帯に利用者とレクリエーションを行ったり、不眠時には利用者の話を傾聴する等、対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の情報は個別に保管しており、いつでも直ぐに見れる様にしている。薬の変更があった場合は引き継ぎや、連絡ノート、記録など情報の共有をしている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手製のオリジナル日めくりカレンダーの色塗りや、食器洗い、洗濯たたみなど個人に合った役割を持って頂き、充実した日々を過ごして頂ける様に支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日などに、散歩を行っている。また行事の計画を立てドライブなどに行ったりしている。	好天時には散歩による閉じこもりの防止に配慮しています。近所の住民との挨拶など地域との交流にも役立っています。また、ドライブの企画により夏の紅葉狩り、冬の雪祭りの氷像見物などに出かけますが、職員のアイデアと気配りにより利用者の笑顔を見ることができます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理出来る利用者にはお任せして、出来ない利用者は希望や用途に応じ使える様に支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話されたり、手紙の代筆をしたりし、郵便物の提出は職員が対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間で清潔と清掃に気をつけている。トイレなどは消臭剤を使用し匂いにも気を付け配慮している。季節感を出す為に壁に手作り季節感のある物、動物などをつくり貼っている。	共有空間の全てに床暖房が備わり、空調による適温が全体を暖かく包み込んでいます。回廊より食堂と居間のエリアがしっかりと区分され、それぞれの機能が存分に活かされています。冬季間の洗濯物の乾燥には苦慮していますが、広いスペースを有する居間などの窓際を利用するなどの工夫も見られます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、くつろいだり、テレビを観られたり利用者同士でお話されたりし過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人とご家族で相談して家具を持って来られたりしている。ベッドや家具の位置などは職員も交え利用者が使いやすい様に相談をし工夫をしている。	利用者と家族が相談の上、ベットなどの配置を決めています。使い慣れた家具などの持込には個人差がありますが、各居室とも整理整頓がされており、安心の住まいとなっています。壁には入居以来の写真がたくさん貼られて、利用者の生活の綴りを見ているようです。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線を考え、歩行時や車椅子移動時に邪魔にならないように通路に物を置かない様にしている。			